

渡良瀬川に全国から客

大型連休は 初心者もベテランも楽しめる釣り場 大にぎわい

ゴールデンウィーク中のここ数日、桐生、みどりの両市を流れる渡良瀬川に、快適な環境と良質な魚を求めて全国から釣り客が訪れている。首都圏をはじめ、東北や九州などからも人を呼び寄せる魅力的な溪流は、桐生地域の天然の観光資源として大きな可能性を秘めている。

桐生地域の「天然の観光資源」に

桐生市相生町三丁目「ア、えさ釣りと、思いの釣法でヤマメを狙う太公望の姿が目立つ。水生昆虫が羽化



石垣さん(左)の釣り講習会。渡良瀬川は全国から客が集まる人気のフィールドだ(1日、相川橋上流で)

この地点を含め、みどりの市大間々町のはねたき橋から桐生市川内町一丁目の小倉峠付近までのキャッチ&リリース(魚の再放流義務付け)区間だけで、1日には100人近い釣り客が入浜した。釣り場を管理する両毛漁業協同組合(桐生市菱町、中島淳志組合長)によると、1日は関東全域のほか、福島、山梨、三重、福岡から来た人もいる。

1日には、さおと毛針だけの簡素な釣法・テンカラの第一人者として有名な石垣尚男さん(69)＝愛知県豊田市、愛知工業大教授＝も初来桐。川のガイドブックの著者・倉上亘さん(71)＝横浜市＝が主催した講習会で、首都圏から男女十数人が釣りを楽しんだ。

国内外の釣りの世界に影響力を持つ石垣さんは、渡良瀬川を「素晴らしい」と絶賛。「どんな釣法でも楽しめる変化に富んだフィールドで、ヒレピンと呼ばれる健康的で形の良い魚が多い。とても貴重な環境です」と評価する。

材も多く、メディア露出も多い渡良瀬川。中島組合長(44)は「初心者からベテランまで」

「ネットで連絡を取りながらここに集合して一緒に釣りをする人も多く、渡良瀬川は釣り人の情報交換の場にもなっている」と中島さん。「飲食や宿泊などの情報が充実すれば、もっと人を呼べるはず」と、漁協として観光振興にも力を入れたい考えだ。

桐生タイムス

5月2日 月曜日

2016年(平成28年) 第18973号